

紙藍会便り

2010年 第2号

組合員社数：24 社
発行月：2010 年 12 月

目次

1. 巻頭雑句『知らんかい』 3. 五地区懇談会 (in 四国) 5. アンケートデータ
2. ベトナム海外視察 4. 紙の歴史～八女和紙～



(c) 財団法人古紙再生促進センター

巻頭雑句『知らんかい』

はじめに

紙藍会便りがはやくも第2号発行となりました。ひとえに皆様のご協力があったもので、ご尽力くださった皆様へ感謝しております。さて、新たにはじまりましたこのコーナー巻頭雑句『知らんかい』ですが、紙藍会メンバーをはじめ皆様方よりザックバランに様々な物事を書いていただくコーナーです。ご依頼があった際は、なにとぞご協力お願いいたします！

第一回 夢の素材『リグパル』とは

十一月始めの頃、夢の扉という番組で興味深い特集があった。石油以外の原料からプラスチック同等以上の物が製造できる。また、その素材は古紙や間伐材等を利用し、100%リサイクル可能であるという。しかも、強度は通常のプラスチックより高く柔軟性もある。ノコギリで切ることも、溶かした後での成型もできる。まさに木材とプラスチックの良いところとといった素材である。この不思議な素材は木の主成分のひとつである『リグニン』という物質により出来ているとの事だ。リグニンを間伐材・古紙等から取り出し、精製することによりプラスチック的な素材になるのだから驚きである。現在プラスチックの製造に使われる主原料は、石油である。しかし、石油は可採年数があと40年程であるという。仮に石油が枯渇してしまったとしたら、プラスチックもなくなってしまう。もはや日常生活にかかせない存在となったプラスチック。

ック。その代替品はかならず必要となってくる。そんな中でできたのが、このリグパルである。2015年までには実用化を目指すとの事なので、実際に手を取る機会はまだ先ではあるが、10年後、20年後にはこのリグパルが至る所で使われる素材となっているかもしれない。

表16 世界の原油可採年数の推移

年	年末埋蔵量 (R)	年間生産量 (P)	R/P (年)
1985	771	21.0	36.8
1986	878	22.1	39.8
1987	910	22.2	41.0
1988	998	23.1	43.2
1989	1,006	23.4	43.0
1990	1,003	23.9	42.0
1991	1,008	23.8	42.3
1992	1,013	24.1	42.1
1993	1,014	24.1	42.1
1994	1,019	24.5	41.6
1995	1,029	24.9	41.4
1996	1,051	25.6	41.0
1997	1,069	26.4	40.6
1998	1,069	26.9	39.8
1999	1,089	26.4	41.2
2000	1,104	27.3	40.4
2001	1,133	27.3	41.5
2002	1,180	27.2	43.4
2003	1,206	28.1	42.9
2004	1,211	29.4	41.2
2005	1,220	29.7	41.1
2006	1,240	29.8	41.6
2007	1,238	29.8	41.6

出所：埋蔵量 BP Proved Reserve History 2008
生産量 BP Statistics 2008
(除くOil Sand)

参考出展

石油工業連盟HPより
石油可採年数推移表

9 月

ベトナム海外視察！

紙藍会初の海外視察は、成長著しい東南アジアベトナムのビナクラフトペーパー社と、直営古紙ヤードであるベリングステーションだ。2 年前に稼働し始めたビナクラフト工場は、機械設備等が最新鋭なのはもちろんのこと、ネットワークシステムでどこからでも構内の映像が見られるような設備まで備えたハイテク工場であった。敷地には広大なスペースがまだあり、今後拡張できる余裕もあった。ベトナムでは古紙回収システムが確立されておらず、原料の現地調達が困難で輸入に頼っているのが現状である。今後は経済成長に伴う需要拡大とともに、インフラ等の整備により古紙の回収率も伸びていくと考えられる。



ビナクラフトペーパー社前にて

10 月

五地区懇談会四国で開催！

今回の五地区懇談会は、四国松山にて開催された。四国での開催は珍しいとの話であるが、今回四国製紙原料商工組合が設立されて二年経過したこともありメンバーの紹介もかねて四国で開催されたとの話であった。今回の話の中心は、行政回収等への高値入札・アパッチの増加・その対策についてであった。条例での取締りは増えつつあるがそれでもまだ不十分なのが現状である。より一層の対策が今後必要になるであろう。



五地区懇談会様子

11 月

紙の歴史～八女和紙～

日本の紙の起源を辿ると、まず頭に浮かぶのは『和紙』である。紙資源大津社長・秋山商事秋山社長の月例会で講演の際、八女和紙の話、そして八女に手漉き和紙の製法を伝えた日蓮宗日源上人の話がでた。調べてみたところ、福岡で和紙があるのは八女和紙（筑後和紙）だけであり、八女和紙が九州で最も古い和紙の歴史があるようである。明治末～昭和初期頃の最盛期には矢部川流域に 1800 を数える手漉き場があったという。現在では、手漉き和紙の製造場は数えるほどしか残っていないが、高品質な和紙である為、海外でも人気が高い商品として販売されている。和紙でつくられた製品はなんとも趣があり味わい深い。いつまでも残っていて欲しい工芸品だとあらためて感じた。



八女和紙を使った線香花火



八女和紙で作られた品物

写真 八女伝統工芸館HP

7 月・8 月・9 月 バラ物数量対前月・前年推移データ（平均値記載）

(単位%)	段ボール			新聞			雑誌		
	7 月	8 月	9 月	7 月	8 月	9 月	7 月	8 月	9 月
対前月	100.5	96.8	97.4	103.2	90.5	100	98.5	92.7	103.9
対前年	102.3	102.5	104.6	100.5	93.2	95.6	100.7	94.1	98.6

詳細なアンケートデータは紙藍会定例会時に配布しています。